

●主催：社会福祉法人 新 中新田自立スクエア / 講演会

日時：2016年9月24日 10:00～12:00 会場：狭山市社会福祉会館 3階

## 障害者権利条約って？ 相模原事件が問いかけるもの 平和な社会で映える権利条約

日本障害フォーラム幹事会議長/NPO法人日本障害者協議会代表 藤井克徳

### はじめに

- ・自己紹介
- ・なぜ法制度や条約を学ぶのか

### 1. 相模原市の障害者支援施設での殺傷事件が問うもの

- 1) わが耳を疑ったあの日の朝のニュース
- 2) 各地からの障害当事者の反応・感想
- 3) 現段階で容疑者の言動をどうみるか
  - ・露骨な優生思想（事件の直接的な動機）
  - ・すべてを「特殊な事件」で片づけられない
- 4) 事件後の政府の対応について
- 5) 今後の検証に当たって

### 2. 障害者権利条約（以下、権利条約）を埼玉県や狭山市の隅々に

- 1) 権利条約の三大素晴らしさ
- 2) 権利条約の押さえどころ
  - ・経過面（検討の初期段階での欧州の発言、くり返された「私たち抜きに私たちのことを決めないで」）
  - ・内容面（新たな障害観、通底している「他の者との平等を基礎として」）
- 3) 権利条約の法的な効力
- 4) 権利条約をめぐる当面の課題
  - ・政府レポート関連（国連へ提出済みのレポートの評価）
  - ・パラレルレポート関連（政府レポートへの民間からの対抗レポートの作成準備）
  - ・監視機構の正常化（いわゆるパリ原則にしたがって）
- 5) 批准された権利条約に基づく今後の政策課題
  - ・基本的な考え方（2つの戦略）
    - ①ゼロ地点戦略
    - ②横並び戦略

・具体的な政策課題

- ①家族依存政策からの脱却（民法改正）
- ②本格的な所得保障政策の確立（障害基礎年金制度の改訂）
- ③障害分野に関する基礎データの集約・集積
- ④障害関連政策審議システムの抜本改革
- ⑤障害関連予算の水準アップ（GDPに占める分配率の欧米並み）

3. 平和な社会で映える権利条約

- 1) 問い続けなければならない「戦争と障害者」
  - ・ドイツで起こったこと（T4作戦の実相と本質）
  - ・日本で起こったこと（戦争体験障害者の証言、精神病院での飢餓殺など）
- 2) 「戦争と障害者」が現代日本に問いかけるもの

4. 社会福祉法人 新 関係者、職員一人ひとりへの期待

- 1) 事業や活動の中心にいつも障害当事者を
- 2) こだわってほしい二つの初心
- 3) 権利条約をいつも手元に
- 4) 二つの目標を（大きな目標と小さな目標）

5. むすび

■資料

資料 1 障害者権利条約全文

資料 2 新聞切り抜き

「えほん障害者権利条約」チラシ

■参考 NHKアーカイブ

戦後史証言「障害者福祉～共に暮らせる社会を求めて～」 藤井克徳コメント

URL : [http://cgi2.nhk.or.jp/postwar/shogen/list.cgi?das\\_id=D0012200049\\_00000#main](http://cgi2.nhk.or.jp/postwar/shogen/list.cgi?das_id=D0012200049_00000#main)